

夜の季節に住む
話し手: ボ・スターン・ブレイディー
2023年・10月・29日

論文: 神の臨在は、人生の夜の季節を乗り越える力を私たちに与えてくれます。

始まり: 商店の詩篇

“見よ、夜、主の家に立って 主に仕えるすべてのしもべよ、主をほめよ。聖所にむかって
あなたがたの手をあげ、主をほめよ。どうぞ主、天と地を造られた者、シオンからあ
なたを祝福されるように。”

詩篇 134:1-3 口語訳

1. “見よ、夜、主の家に立って 主に仕えるすべてのしもべよ、主をほめよ。”

私は聖書の「見よ」という言葉が大好きです。それはネオンの矢印で、神が私たちに本当に見てほしい、知ってもらいたい、経験してもらいたいものを指しています。この節の「見よ」は、「これに注目してください」という意味です。そして、私たちがこれに気づくように言われているのは、それが見落とされやすいからです。これは私たちに別の礼拝方法を示しています。これらの祝賀の間、24時間礼拝を行うために司祭が任命されており、詩編作者はこう言っています。「夜に礼拝する人たちを見なさい」。墓地の変化を見てください。彼らは全力を尽くしています。彼らは神聖な沈黙の中に立っており、賛美の手を上げ、神の国の到来を見るために犠牲を払っています。彼らは太陽が昇る前、鳥たちが目覚める前、世界が明るくなる前に礼拝を行っています。彼らは暗闇の中で礼拝をします。見てください。それは美しいと思いませんか？ 私たちは今祭司です（黙示録 1:6）

(空港 - 太陽が昇る前に目覚める: 現実感がありません。世界全体がひっくり返ったような気分になります。何も固さを感じません。真実は、神の臨在を目指す巡礼において、私たちは夜の季節を旅することになるのです...私たちは、昼が夜に変わるときに自分の心と手でどこに行くかを決めることになるのです。)

私たちは遭遇する:

1. 普遍的な暗闇: 宇宙の戦い。全世界が均等の影響下にあります。権力、広告など。
2. 状況の暗闇: 力の駒。邪悪な計画を持つ邪悪な男たち。パンデミック。経済危機。政情不安; 「戦争と戦争の噂」。
3. 個人的な暗闇: 人間関係の破綻、精神的不安。
4. ただの「昼ではない」夜。それは自然のリズムの中にあります。昼が過ぎ、夜が来る。悪いことである必要はありませんが、難しい場合もあります。待ってください、友達！ 神はたとえ午前3時であっても崇拜に値するお方です。鳥のさえずりか聞こえなくても。誰

も見ていない時や参加していない時でも、自分の声だけが聞こえる時でも。たとえあなたの腕が疲れ、あなたの信仰がおぼろになったとしても...主を祝福してください。それでも、夜になったら面白い主を祝福してください。

STAND = 立つ、留まる、耐える、立場を取る 1a) (Qal) 1a1) 立つ、立場を取る、立った態度をとる、前に出る、立場を取る、姿を現す、出席する、奉仕者になる、または奉仕者になる1a2) 立ち止まる、止まる(動くか何かをする)、やめる 1a3) 遅れる、遅れる、留まる、継続する、とどまる、耐える、持続する、堅固である

物事が暗いとき、本当に暗いときは、それを乗り越えようとする誘惑に駆られることがあります。暗くない空間を見つけるにはどこに行けばよいのでしょうか？危険のない安全な場所。しかし詩編作者はこう言います。「立ちなさい。」光である人から受け取った光の中に立ってみてください。神の善良さ、美しさ、強さに立ってください。神に愛されているというアイデンティティに立ってください。自分の投稿を放棄しないでください。立つ。祈る。丘の上にある都市であること。人々が避難できる光となってください。光の中に住めば、人々はあなたの光を見るでしょう。神の御前に深く根を張り、絶えずあなたを良いもので満たしてくださるよう神に願ひましょう。暗い世界におけるあなたの光となって、暗い世界のための光であなたを満たしてくださるよう神にお願いしてください。

私たちは神のものであるため、光を持っています。私たちの周囲の世界に炎を投げ込む義務はありません。闇との戦いは見当たりません。実際、光の存在自体が闇が勝利しないことを意味しているようです。イエスに従う者としての私の仕事は、特に暗い季節に、私の心と家をイエスの光で満たすことです。私の仕事は、光を法制化することではなく、他人を光ではないとして批判したり、暗い家を非難したりすることではありません。私の仕事は、暗く冷たい世界で暖かい光として生きることです。私はこうやって夜に奉仕しています。光の中で生きることによって。

2. 手を上げてください！

“聖所にむかってあなたがたの手をあげ、主をほめよ。どうぞ主、天と地を造られた者、シオンからあなたを祝福されるように。”

詩篇 134:2-3 口語訳

主を祝福してください。これが最初のステップです。私たちが濃い暗闇の世界で生きていることに気づいたときの、最初の、そして最良の一步。主を祝福してください。ヘブライ語の「祝福」という言葉には、謙虚さという概念が込められています。ひざまずくという意味です。お辞儀をする。そして、これは単なる文字通りのことではなく、心の位置です。神にそれを受け入れさせ、消費させ、私たちを振り出しに戻し、神の意志のみに戻すという解除です。私が夢見、希望するすべてがここにあります。あなたのものです。ここに私のアイデアがあります。彼らは素晴らしいと思います。しかし、それらはあなたのものです。燃やしてしまえ。私自身の心の暗闇の中に、あなたの光だけが入ってくるスペースを作ってください。私があなたの愛やあなたの計画を

疑っている場所を照らしてください。暗闇が私たちを取り囲むとき、最初のステップは礼拝です。礼拝は私たちの住まいに光をもたらします。それはろうそくに火を灯し、神が依然として神であり、依然として善であることを私たちに知らせます。

祭司たちは国全体のために夜通し奉仕しました。彼らは泣き、礼拝し、悔い改め、それができなかった人、あるいはそうするつもりがなかった人たちのために喜びました。2週間前のシェルターで、アリサは「私が主を求めました、そして主は聞いてくださいました、そして主は答えてくださいました」という歌をリードし、彼女は大きな申し出をしました。彼女はこう言いました。「もしあなたがその曲を歌う信仰を持っていないとしても、私には信仰があります...私があなたのために歌います。あなたに代わって歌います。」時々、私たちは他の人の真夜中に立って、彼らのために神に手を上げます。（イエスは最も暗い瞬間に弟子たちにこう尋ねました。「一時間だけ私と一緒に立っていただけませんか？」人々は私の暗闇の中で私と一緒に立ってくれました。）

話。夜に立つ - 私のブログのこのページ、2015 年 7 月 9 日:

昨夜も長い夜を過ごしましたが、ベッドに横たわりながら、昨日友人が送ってくれた聖句を思い出しました。私は朝一番にこの本を読み、すぐに寝不足の涙と礼拝の中に溶け込んでしまいました。この詩をこの角度から見たのは初めてです。昨夜、私は何度もこの言葉を自分自身に引用しましたが、より深い意味が私の心に根付き始めました。

これがその聖句です:

「見よ、主の家で夜仕えるすべての主の僕たちよ、主を祝福せよ！
手を聖所に上げて主を祝福しなさい、
天と地を造られた方、シオンから主があなたを祝福してくださいますように。」詩篇134

そして、これが私の言い換えです。すべての新米ママ、ALSの妻、疲れきった介護者、10代の若者の親、そして夜勤をしたことのあるすべての人に向けて書きました。

見てください！すべてが暗いときに主に仕える人たちが見えますか？

彼らは星の音に合わせて赤ちゃんを揺らします。

彼らは月の光によって心と体を壊す傾向があります。

彼らは午前 2 時に電話に出ますが、その着信音が鳴っているということはおそらく睡眠が終わっていることを意味しているという事実を知っています。

彼らはベッドの上で、かつては一晩中抱きしめていたが、もう手の届かない子供たちのために祈っています。

快適さを放棄すると、彼らの犠牲は聖域になります。神様が現れる場所。

さあ、疲れた者よ、愛情を主に向けなさい。あなたの多すぎる手を主に上げてください。そうすれば、主はあなたに祝福を返してくださいます。あなたが自分の世界の断片をつなぎ合わせている間、神はあなたを抱き上げて抱きしめてくれます。天地を造られた神はあなたの捧げ物をご覧になり、きっとあなたを祝福してくださいます。

詩篇 134

返事: どこにいるの? 午前3時? 真っ昼間? 今日のあなたの生活における光の状態はどうですか?